



心をこめて精一杯活動実施中

加古川市立

志方東小学校



令和 5 年度

学校便り 第 44 号

R6.3.15 発行

## 6 年生 近づく旅立ちのとき

13 日(水)9 時より、体育館において卒業式の予行を行い、式辞や祝辞以外は式次第に従って進行しました。6 年生は、呼名の際の「はい」や証書を受け取る所作、呼びかけなどひとつひとつのことは頭に入っているの、あとは一つ一つに意識を集中して、ていねいに心をこめることが大切かと思えます。4,5 年生は、最初から最後まで集中して立派な態度で臨んでおり、4,5,6 年生で歌う校歌や「旅立ちの日に」の歌唱は、よく声が出て体育館を包みます。いよいよ 6 年生の旅立ちのときが近づいてきました。心をこめて送りだしたいと思えます。



## 卒業証書を書きました

卒業証書を書きました。書いたのは、証書番号、名前、生年月日です。昨年、修学旅行で訪れた奈良公園内にある書道用品専門店で購入した小筆と墨で、無事 12 枚書き終わりました。墨をすることから始め、心をこめて書きました。卒業証書番号は、その学校の創立以来の卒業生の人数を表し、通算の人数です。「証書番号は学校の歴史と誇りを表す」という人もいます。自分は何番か確認してみてくださいね。



## 音を 心をあわせて 音楽科学習発表会

6 日(水)より、1 年間の音楽科の学習成果を発表する会を各学年ごとに開いています。トップバッターは、6 年生で、2 名が司会進行を務めました。まず、4 名ずつのグループによるリコーダー演奏で、曲は「カントリーロード」。楽譜が載せられている教科書に「心をこめて演奏しよう」と書かれていました。演奏中には、応援するように自然と手拍子が起こり、曲調と相まって優しい雰囲気になりました。次に、2 名による「アイドル」(YOASOBI)のピアノ連弾でした。ずいぶん前からこの日のために練習してきたそうです。そして最後に、全員での合唱「明日を信じて」。担任に捧げる歌だそうで、心をこめて精一杯歌う子どもたちの姿を見て、大切な時間を邪魔しては悪い、そっと音楽室を後にしました。7 日(木)、6 年生に続いて 5 年生が、1 年間の学習発表会を

開きました。まず、3,4 名ずつのグループによる曲名「茶色の小びん」のリコーダー演奏でした。楽譜が載せられている教科書に「低音のはたらきを感じて演奏しよう」と書かれていました。他のグループが演奏中、曲に合わせて体をゆすってリズムをとっている子もあり、演奏が終わると一斉に大きな拍手が起きました。次に、1 名でのキーボード演奏「すいかのめいさんち」。そして最後に、全員での合奏「ルパン三世のテーマ」と合唱「大切なもの」でした。合唱はみな大きな



声で歌い、歌詞がそのままストレートに伝わってきて心が洗われるようでした。その後、担任にプレゼント(手紙)を渡し、全員で声をそろえて「ありがとうございました!!」とお礼を言いました。クラスの仲の良さが伝わってくる発表会でした。11 日(月)は、4 年生。代表によるはじめのあいさつの後、2,3 名のグループに分かれてリコーダーの演奏でした。曲名は「ハローサミング」で、サミングとは、裏側に 1 つだけある穴をおさえる親指の使い方のことを言い、指使いはまったく同じでも、サミングを使って裏側の穴に、少しすき間をつくることで、1 オクターブ高い音を出すことができます。同じ曲でしたが、それぞれ力強い音だったり、やわらかい音だったり、個性が出ていました。子どもたちは、少し緊張しているようでした。次に、合奏「ラ・クンパルシータ」。教科書には「パートの役わりを生かして生き生きとえんそうしよう」と書かれており、そのとおりに 7 人でしたが、役割を果たしてきちんと合奏になっていました。最後に、合唱「ゆかいにあるけば」「大切なもの」でした。「大切なもの」は、5 年生も歌いましたが、それぞれの良さがあり、4 年生もよく声が出ていて歌詞がしっかり心に届きました。1,2,3 年生の様子は、学校ホームページをご覧ください。

## 5.6 年生 イカナゴくぎ煮教室を実施しました

8 日(金)に、家庭科室において 5,6 年生対象で「イカナゴくぎ煮教室」を開きました。これは、「次代を担う子どもたちを対象とした、本県瀬戸内海の春の風物詩であるイカナゴの料理教室を開催することにより、地元で漁獲されるイカナゴのおいしさを伝え、もって地産地消・魚食普及の推進を図ること」を目的とし、主催は兵庫県イカナゴ謝恩実行委員会・兵庫県漁業協同組合連合会です。当日は、兵庫県漁業協同組合連合会より 2 名の方が講師として来校され、子どもたちにいろいろ教えてくださいました。(人気の教室とあって抽選でした。一度は落選の連絡がありましたが、キャンセルが出たそうで実施できました) その説明の中には、「大切な命をいただく」「感謝



や「郷土料理なので、伝統を引き継ぐ」などの言葉があり、中には「うん、うん」とうなずきながら聞いている子どももいました。イカナゴの漁開始日が 11 日からとあって、代わりに上乾ちりめんを用いましたが、調理の最中は、家庭科室どころか校舎中、甘辛おいしいそうなおいが満ちていました。それぞれ平等に分けて持ち帰りましたので、ご家庭でも味覚から「春」を感じていただけたなら幸いです。(新聞によりますと、今年の漁は 11 日限りだそうです)